

卵子提供を受け母親になる過程で女性が体験した出来事とその時の気持ち

医療法人三慧会 IVF なんばクリニック ○富谷友枝 森本義晴
国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 清水清美

I 緒言

海外で卵子提供を受け母親になる過程で女性が体験した出来事とその時の気持ちを明らかにする。

II 方法

調査期間は20XX年～20XX年。対象者は、海外で卵子提供を受けた後の女性のフォローに当たったA不妊治療施設の了解を得て、施設を通して研究の依頼を行った。参加意思のある女性に研究者が再度研究の目的等を書面にて説明し同意の得られた者に同意書を交わした。インタビュー調査は半構成的面接法にて実施。女性の語りから直面した出来事とその気持ちについて時期ごとにまとめた。倫理的配慮として、紙面にて事前にインタビューの受諾は本人の自由意志によるもので途中の辞退も可能であることを説明した。IVF なんばクリニックおよび国際医療福祉大学の倫理委員会の承認を得て実施した。

III 結果

インタビュー協力者3名。結婚年齢41-44歳、出産年齢47-49歳。

卵子提供を決定するまで 夫婦間の不妊治療に限界を感じるなか卵子提供について情報を知る・養子縁組も検討するが困難を感じる・選択に対して自問/夫と話し合う・限られた情報の中で決意する **決定から妊娠まで** 夫婦で渡米する・斡旋業者から説明（基本検査・精子採取・ドナー候補の選択、出生前診断、服薬指導）を受け契約する・帰国後もドナーの決定で斡旋業者とやり取りをする・卵子提供の事実を打ち明けて/打ち明けずに国内の治療施設でフォローを受ける・急遽移植日がきまり1人で渡米する・移植を受ける **妊娠から出産まで** フォロー施設より出産病院の紹介を拒まれる・合併症のリスクに直面する・卵子提供であることを打ち明けて/打ち明けなくて出産に臨む・予定/緊急帝王切開となる **子育て期において** ①産後早期 子どもに愛情が注げるか揺れ動く・事実を周囲に明かせない後ろめたさを感じる ②子育て期 似ていなくても自分の子ども・医療者には本当のことを言いたいと言えない・子育ては大変・子どもへの告知について他の人の意見を聞きたい **全体を通しての要望** 自身の治療を早めに方向転換する情報がほしい・フォロー施設/実施施設/出産施設間の連携を持って欲しい・事前に卵子提供に関する情報（卵子提供を受ける過程/費用/子どもへの告知）が欲しい・プライバシーが厳守された相談場所がほしい/同じ体験をした人と話がしたい。

IV 考察

女性たちは、結婚が遅く夫婦間での不妊治療を経た後に本技術を選択していた。卵子提供に関する情報は少なく、相談できる場がないなかでこの技術を選択しており、卵子提供実施前後のフォロー施設と出産施設間の連携に問題を抱えていた。海外に卵子提供を受けに行く女性に対して、心理的・身体的・社会的側面の情報提供や医療的ケアの必要性が考えられた。

V 結論

本結果は対象が3例と少なく本結果を一般化することはできない。しかし、海外にて卵子提供を受け母親になる女性の特性を理解する上で、また生殖医療に関わる医療者としての役割を検討する上で、重要な一資料になると考える。